

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00515

研究課題名(和文) 富山大学附属図書館所蔵小泉八雲旧蔵書(ヘルン文庫)書き込み調査の推進

研究課題名(英文) Promotion of research of hand writings of the Lafcadio Hearn library of University of Toyama

研究代表者

中島 淑恵(Nakajima, Toshie)

富山大学・学術研究部人文科学系・教授

研究者番号：20293277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、富山大学附属図書館所蔵小泉八雲旧蔵書(以下ヘルン文庫)の中でもフランス語で書かれた本(洋書1350冊の中の719冊)を中心に書き込み調査を行い、それらの書き込みがハーンの著作にどのように反映されているかについて考察を行ったものである。本研究は本来、米国ヴァージニア大学に収蔵されているハーンの取材メモを中心に、マルティニークの民間伝承についてヘルン文庫に収蔵されている蔵書およびその書き込み調査を行う予定であったが、コロナ禍により海外渡航が不可能となった2年間にわたって、これまでに収集した資料とヘルン文庫の収蔵書の書き込み調査を中心とした研究に研究方針を変更せざるを得なかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の推進によって、ラフカディオ・ハーンが来日以前から当時成立しつつあった民俗学、すなわちフォークロアや伝承の学問的解明に関心があり、とりわけヘルン文庫に収蔵されているフランス語本にはヨーロッパ各地やフレンチ・クレオール地域の民俗学的な著作が多くみられることが分かった。また、これまでに収集・閲覧したハーンのメモ書きや書き込みから、ハーンの取材した当時のマルティニークの民話は、他のクレオール地域、たとえばモーリシャスなどに伝わる民話と似通っていたことにもハーンは意識的であったことが判明している。こうして獲得された手法は、やがて日本における伝承の調査にも応用されたものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study examined the hand writings by Lafcadio Hearn on the of books written in French (719 books) in the Lafcadio Hearn library (former collection of Lafcadio Hearn in the University of Toyama), and examined how these hand writings were reflected in Hearn's writings. Originally, this research was planned to focus on Hearn's interview notes stored at the University of Virginia in the United States, and to investigate the collection and writing of Martinique folklore stored in the Hearn Library, but over the two years when it became impossible to travel abroad due to the corona disaster, I had no choice but to change my research policy to focus on the materials I had collected so far and the hand writing surveys of the Lafcadio Hearn library of University of Toyama.

研究分野：比較文学

キーワード：ラフカディオ・ハーン 比較文学 民間伝承

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

富山大学附属図書館所蔵小泉八雲旧蔵書(以下へるん文庫)の蔵書の書き込み調査は、当初からその必要性が叫ばれながら、これまでほとんど手が付けられていなかった。とりわけ、ヘルン文庫の洋書の三分の一を占めるフランス語本(719)冊については、本研究開始以前には全く行われていなかったと言っても過言ではない。しかるに、フランス語本はハーンが来日以前、主にニューオリンズで購入したものが多く、アメリカ時代のフランス文学の翻訳や、新聞の文芸コラム執筆の参考にしたものが多いと思われる。また、ハーンの書き込みは、本の裏見返し等に、鉛筆で数字のみが記入されていたり、本文の頁の余白に、傍線が引かれていたりするものが多。恨み返しの数字は多くの場合、ハーンが関心を持った頁番号であることが多く、本文の余白に傍線があることと呼応していることがよくあるが、結局本文の当該箇所の内容をフランス語で読み込めなければ、ハーンが何に興味を持って当該箇所に傍線を引いたのか、またその頁を記録したのかが分からないということになる。

さらに、これらの書き込みが、ハーンの新報記事や翻訳、あるいは講義や創作にどのように反映されているかを探るためには、書き込み調査と並行してハーンの著作物の精緻な読み込みが必要となる。これについても蔵書調査、書き込み調査と並行して専門的知識を駆使しなければ実現不可能な研究であるため、この研究が着想された。

### 2. 研究の目的

以上のような背景を踏まえて、本研究の目的は、第一に、へるん文庫の蔵書の網羅的な書き込み調査を実施することとなる。書き込みの有無、ある場合はそれがどのような内容のものであるかをまず調査し、それをデータベース化する。そのうえで、それらの書き込みがどのような意義を持つかについて、書き込みのある書籍の精読と精査、ハーンの著作物との比較検討が必要になる。さらには、著作物として出版されたものだけでなく、とりわけハーンが来日以前にマルティニークを中心に行ったとされる聞き取り調査の結果としての取材メモのうち、所在不明とされたものが、米国ヴァージニア大学所蔵のメモ書きであることがこれまでの調査の結果推定されるので、それらのメモ書きとへるん文庫の書き込み調査の結果も照合させながらハーンの文学的営為の全体像を把握しようというのが本研究の目的である。

### 3. 研究の方法

本研究の方法としては、まずへるん文庫の書き込み調査を行う。これについては、ヘルン文庫の書物が稀覯書であり禁帯出であることから、附属図書館の協力を得て申請者がパーソナルコンピュータ等を持ち込んでへるん文庫において調査を行う。調査の結果は、データベース化し、いずれ公表することを目的とする。このようにして得られた書き込み調査の結果と、ハーンの著作との関係を考察するために、ハーンの著作物の精査もまた必要である。主に対象とするのは、ハーンの著作物はもとより、アメリカ時代のハーンの新報記事、アメリカ時代にハーンが発表したフランス文学の翻訳、来日後のハーンの著作および第5高等学校および東京帝国大学での講義録ということになる。これに加えて、ハーンの取材メモ、とりわけマルティニークにおける民話や伝承の聞き取り調査のメモ書きを、米国ヴァージニア大学所蔵のハーン関連文献の中で精査したい。これについては米国ヴァージニア大学附属図書館に調査に赴く必要がある。米国時代の新聞記事等については、出版されているハーンの著作物の他に、当時の出版状況や新聞報道の在り方を精査するためにシンシナティ、ニューオリンズの公共図書館等に赴いて調査を行う必要がある。また、これらの書き込みと著作物、取材のメモ書きを照合することによって、来日前のハーンがとりわけクレオール民話に関心を抱いていたことがすでに予測されるが、ハーンが滞在し取材活動を行ったマルティニークにおける現地調査、とりわけ民話や伝承の調査が不可欠となるため、現地に赴く必要がある。さらに、これらフレンチ・クレオールの民話や伝承は、フランス本国における民話や伝承と密接な関係を持ち、また、遠く距離を隔てたフレンチ・クレオールの地、たとえばモーリシャスの民話や伝承とも深く関連しているものと推測される。そのため、フランス本国における現地調査および文献調査、モーリシャス等マルティニーク以外のフレンチ・クレオールの地における現地調査および文献調査も不可欠となる。

また、こうしてハーンが独学で身に着けた聞き取り調査等の民俗学的調査の手法が、日本の民話や伝承を採集する際にもどのように生かされているかについて、へるん文庫所蔵の関連書籍について調査を行うと同時に、ハーンが著作の題材とした松江や熊本あるいは東京などの現地調査や文献調査によって解明を試みる。

### 4. 研究成果

2019年度はまず、富山大学附属図書館所蔵小泉八雲旧蔵書(以下へるん文庫)について、フランス語本を中心に書き込み調査を行った。中でも、後のハーンの民俗学的聞き取り調査手法の基礎になった『全民族民衆文学叢書』の中の一冊『モーリシャスの民話』にみられる書き込みが、マルティニーク滞在後来日までの短い期間に行われたもので、モーリシャスの民話とマルティニークの民話の相同性にハーンが着目していた様子を確認することができた。ハーンはマルティニーク滞在時に現地の民話や民謡の聞き書きを行っており、その時の取材ノートにハーンは

来日時（189 に持参していた。そのうち一部は 1832 年に『三倍美しい物語』としてフランスで出版され、また一部はルイ・ソロ・マルティネルによって『コント・クレオール』として 2011 年に解説・発表されているが、未だ多くの物語が不明のままである。これに関連して、ヴァージニア大学附属図書館の所蔵のフランス語メモ類が、ハーンの聞き書きの取材メモである可能性が大変高いということが現地調査によって解明された。また、これらフランス語本の入手経路について、ニューヨーク等で調査を行い、おそらくニューヨークの書店経由で購入された可能性が高いことが裏付けられた。さらに、ニューヨークおよびシンシナティ公共図書館等における調査から、ハーンのフランス語による情報収集の実態がさらに解明された。さらに、ハーンの処女出版となったテオフィル・ゴージェの短篇小説集の英訳『クレオパトラの一夜およびその他の幻想物語集』訳出を巡って、その典拠となったヘルン文庫所蔵のゴージェの短篇集 2 冊の書き込み調査から、その訳出についてとくに苦心したであろうと思われる箇所について、訳語の入念な検討が行われていたことが判明した。また、ハーンのロマン主義理解の起源は、ゴージェの著作を典拠としたフランスロマン主義にあったことも判明した。

2020 年度は、新型コロナウイルス蔓延により、当初予定していた海外（アメリカ合衆国およびフランス共和国その他）における資料収集や現地調査を断念せざるを得なかった。また、国外においても、申請者の勤務校以外では、貴重資料の閲覧を制限されていることが多く、結果的に勤務校附属図書館における研究資料を中心にした文献調査（これについても緊急事態宣言発令中における研究休止期間および図書館への立ち入りを制限された期間を除く）を行い、これまでに入手した研究資料の精査と集大成を行うにとどめた。また、今後も海外における現地調査や資料収集が容易に再開できない予測も含め、国内での現地調査や資料収集に研究の軸を変更する方向性について検討を行った。ただし、これを機として、オンラインによる講演を複数回行い、国内外から聴衆を得たことで、研究成果の公開方法について、これまでよりも広範囲かつ効果的に世間に公開できる手段を入手できたことは望外の成果であるといえる。また、ハーンの生きた時代は、感染症が蔓延していた時代であり、特に日本で蔓延していたコレラについては、ハーンがまとめたエッセイを残して、日本人の心性の在り方を考察する拠り所としていることが明らかになり、これまでとは異なる角度から論考をまとめ、また、ハーンのそれらのエッセイを読むことで、今日同じく感染症に翻弄される我々が、ハーンから、あるいはハーンの生きた時代から何を学ぶことができるのかについて深く検討する機会となり、今後のハーン研究に進むべき方向について指針が得られた。さらには、来日後にハーンが残した数多くの著作の精査と、小泉八雲旧蔵書（ヘルン文庫）の書き込み調査を継続することによって、ハーンが書き残している日本国内の事象についても、特に民俗学的手法を援用して精査する必要があることが分かり、今後の研究の在り方について指針を得ることができた。

新型コロナウイルス蔓延状況に鑑み、2021 年度も外国出張が困難となり、また、外国から研究者を招聘しての国際シンポジウム等の開催も困難となった。そのため、富山大学附属図書館蔵の小泉八雲旧蔵書（ヘルン文庫）における書き込み調査とそのデータベース化という基礎作業に立ち戻って研究を行い、成果を論文等の形で発表した。とりわけ、ハーンにおけるわが国固有の文芸である俳句、和歌の受容について、研究を深めることができた。とりわけ、自らは日本語を読めなかったハーンが、どのようにして和歌や俳句の内容を理解し、それを自らの作品の中で英米の読者に紹介していたかについて、詳細に調査することができた。アメリカ時代のハーンはすでに日本固有の「小さな詩」が存在するをもっぱらレオン・ド・ロニーの『詩歌撰葉』などから知っていたが、俳句についてあるいは句作や句会についてとりわけ深い知識を得たのは、来日後のことであり、来日前の日本の詩歌についての理解と、来日後の理解については大きな隔たりがあることが分かった。このようなより詳細な日本の詩歌、中でも俳句についての理解は、松江の尋常中学校、東京帝大でもハーンの学生であり、門弟として長らくハーンに仕えた大谷正信によるところが大きいことも解明できた。また、このような俳句理解は、ハーンの同時代の欧米人においては最初期のものであることも改めて確認することができた。ハーンが作中で紹介している俳句の諸相については、引き続き継続して研究を進めることとし、ハーンの著作が 1920 年代以降の世界的なハイカイ・ブームの中でどのような役割を果たしたのかについても継続して考察を行って行くこととなった。また、前年度に継続してオンラインによるセミナー、講演等を積極的に行い、研究成果を公表した。また、コロナ禍の余波を受けて海外調査ができなかったことに鑑み、2021 年度末に、補助事業期間延長の申請を行った。

2022 年度は、これまでの研究成果をハイブリッド方式の講演会を開催して広く世間に公開するとともに、対面でも講演を行う機会が得られた。さらに、研究補助員を雇用して、ヘルン文庫の書き込み調査を網羅的に行う体制づくりを整えることができた。また、これまでの研究成果を複数の論文によって発表することもできた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 45
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンのとテオフィル・ゴージェ受容－富山大学附属図書館ヘルン文庫書き込み調査報告から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本フランス語フランス文学会中部支部研究論集	6. 最初と最後の頁 67,86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 67(1)
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンと医薬－癒しと救い 「蝶」の話 - その1	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『薬学図書館』	6. 最初と最後の頁 2,6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 66(3)
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーン－癒しと救い ハーンと音楽	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『薬学図書館』	6. 最初と最後の頁 98,102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 53
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンから見たボードレール	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊びーぐる	6. 最初と最後の頁 42,45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 19
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンによるボードレール 『悪の華』評を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 へるん倶楽部	6. 最初と最後の頁 2,6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 第18号
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンとロマン主義に関する予備的考察 東京帝国大学講義録を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 へるん倶楽部	6. 最初と最後の頁 1,6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 66 (1)
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンと医薬 癒しと救い ハーンと感染症	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 3,8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 第56号
2. 論文標題 「富山大学附属図書館所蔵小泉八雲旧蔵書(ヘルン文庫)書き込み調査報告-松江ゆかりのエピソードを中心に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 へるん	6. 最初と最後の頁 4,13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 第17号
2. 論文標題 「死んだ子どもを思う詩 - 加賀潜戸、『ギリシア詞華集』、山上億良、ロバート・ブリッジス」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 へるん倶楽部	6. 最初と最後の頁 1,10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 第170巻
2. 論文標題 ヘルン文庫の森に分け入って	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民族学	6. 最初と最後の頁 50,52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 64(3)号
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンと医薬 癒しと救い 一畑薬師のこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 140,145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 64(4)号
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンと医薬 癒しと救い 水泳と海水浴	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 207,211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中島淑恵	4. 巻 65(1)号
2. 論文標題 ラフカディオ・ハーンと医薬―癒しと救い ―溺死する女	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 21,26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中島淑恵
2. 発表標題 夏目漱石のテオフィル・ゴーティエ受容 ラフカディオ・ハーンを媒介項として
3. 学会等名 日本比較文学研究会東北大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中島淑恵
2. 発表標題 ラフカディオ・ハーンのテオフィル・ゴーティエ受容 富山大学附属図書館ヘルン文庫書き込み調査報告から
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会中部支部大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 中島淑恵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桂書房	5. 総ページ数 95
3. 書名 富山大学人文学部叢書 人文知のカレイドスコープ	

1. 著者名 山上浩嗣他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝日出版社	5. 総ページ数 803
3. 書名 コレスポンドンス 北村卓教授・岩根久教授・和田章男教授退職記念論文集	

1. 著者名 立花英裕編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 432
3. 書名 クレオール of 想像力 ネグリチュードから群島的思考へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ラフカディオ・ハーンとフランス文学 高志の国文学館・文学講座（大学連携シリーズ）2020年7月4日  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=UY4WqkImXSg&amp;t=264s">https://www.youtube.com/watch?v=UY4WqkImXSg&amp;t=264s</a>  ラフカディオ・ハーンと感染症～明治末わが国におけるコレラ流行を中心に～  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=8Qud517wgF4&amp;t=3s">https://www.youtube.com/watch?v=8Qud517wgF4&amp;t=3s</a>  ハーン作品における「祟り」について考える  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=leRbpdolD1g">https://www.youtube.com/watch?v=leRbpdolD1g</a>  ハーン作品における「幽霊」と「化け物」について考える  <a href="https://www.youtube.com/watch?v=Q6pzkWCN6nc&amp;t=18s">https://www.youtube.com/watch?v=Q6pzkWCN6nc&amp;t=18s</a></p>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 ラフカディオ・ハーン国際研究シンポジウム	開催年 2019年～2019年
--------------------------------	--------------------



8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------